

翔栄ファームの自然循環型農業 -温暖化・食料危機・安全な食への取り組み-

当社は、温暖化が加速しつつあった2016年、自然循環型農業を始めました。切っ掛けは妻の癌です。2007年に全摘したその癌は、6年後に再発。その手術の際、他にも癌が見つかり、医者は抗癌剤や放射線治療を勧めましたが、僕らはその頃、食べ物が怪しいと思っており、医者の勧めを断り、食事を変えて治す決心をしたのです。

医学の父:ヒポクラテスの言葉【食べ物で治せない病は医者でも治せない】



【実体験】「抗がん剤治療」「放射線治療」「ホルモン療法」をせず、食生活の変更で乳がんを自然治癒した、…

夏の暑さで腐らない菓子パン。カタカナだらけの原材料表示。野菜の99.5%は人為的なF1の種から、形も味も同じ物が大量生産。しかもF1種は一世代限りです。美形に設計した孫を産まない同じ太郎君を大量に産む技術です。農薬は今、人造人間を薬と点滴で生かすが如く、土中の微生物も殺して化学肥料で育てます。大気には、農薬で死んだ動物のCO2が満ち、化学肥料の窒素酸化物はCO2の300倍の温室効果ガスを放ちます。医者が妻に化学療法を勧めていた頃、僕はこんなことを考えていたのです。

そこで僕らは、医者の勧めを断り、無添加・無農薬・無化学肥料だけの食事を始めると、食べる物が無くなったのです。そりや、効率と利益と目先の安全を求める現代の経済は、食品を金儲けの道具にし、添加物まみれにします。自然の食べ物は腐って分解されますが、ケミカルは分解されずに身体に溜り、アレルギーや癌を起こします。そして今、人々は花粉症に悩み、対症療法の薬で逃れ、副作用のための薬も飲むのです。私達は自然を軽く見て、食べ物こそ薬であることを忘れ、広告を信じ、ケミカル品信奉者になっています。そこで僕らは、自分で農業を始めるしかないと決心し、自然循環型農業を始めたのでした。

医学の父:ヒポクラテスの言葉【汝の食を薬とし、汝の薬は食とせよ】

さて、自然の食べ物以外食べないと決めた妻は、半年後の検診で既に癌が見られず、医者は目を丸くして、「(治療は)何もしてないんですね?!」と何度も繰り返すばかりでした。そして次の年の2015年春、今度は僕の花粉症が完治です。僕は妻同様に、毎年春には水中メガネ風のメガネをかけても涙ボロボロだったのに、です。そこで2016年から、自然循環型農業をスタートしました。妻の花粉症が治ったのは、それから3年後でした。

医学の父:ヒポクラテスの言葉【人は自然から遠ざかるほど病気に近づく】



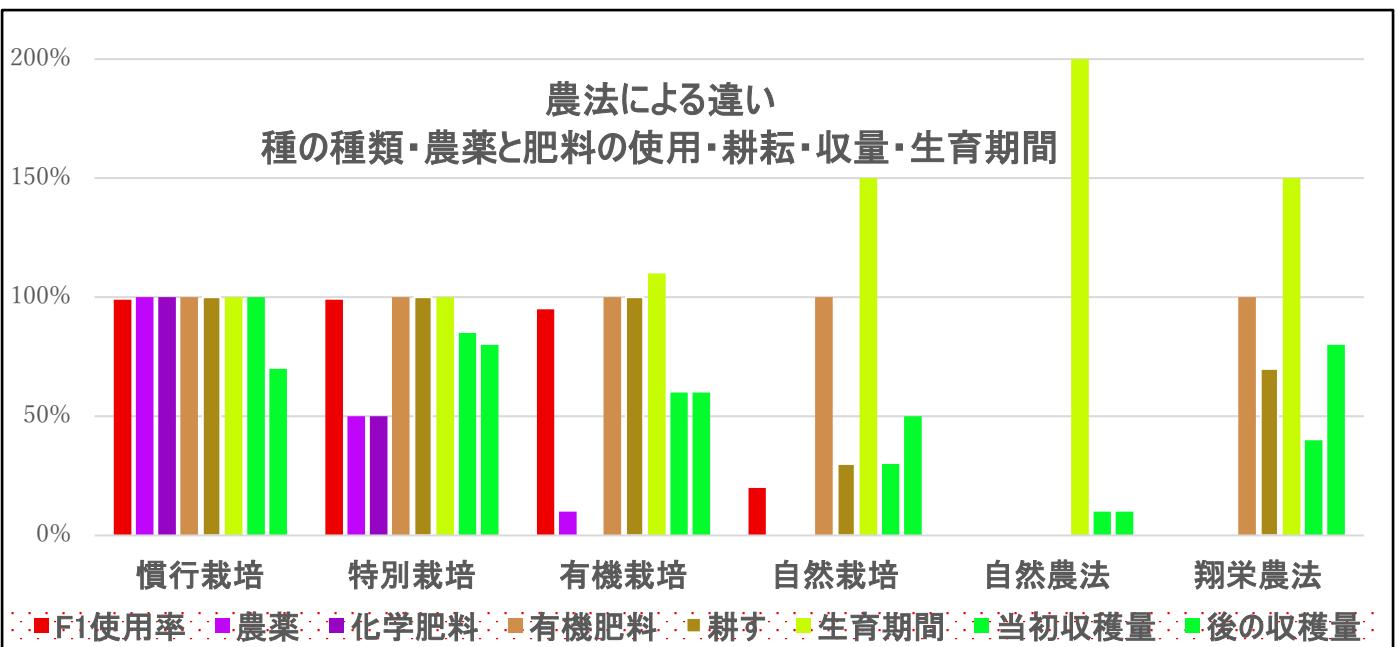
さて、近代農業は温暖化と土壤劣化をもたらし、グローバル化は食の海外依存率を高めている今、分断と戦争でシーレーンが封鎖されれば、日本は一瞬に飢餓大国になります。ただでさえ食料自給率38%(カロリーベース)なのに、農薬も化学肥料もF1の種も、日本はすべて海外依存です。一度農薬で微生物を殺した農地は、化学肥料無しに成り立ちません。人間の浅知恵に頼らず、種を守り、蜜蜂の生きる自然を回復させる事こそ、食料問題の根本解決なのです。

文責: 合同会社翔栄ファーム代表 宇佐神慎



【栽培方法の種類】

栽培名称	F1使用率	農薬	化学肥料	有機肥料	耕す	生育期間	当初収穫量	後の収穫量	
慣行栽培	◎	◎	◎	○	◎	基準	基準	70%	
	F1の種を蒔き、農薬や化学肥料を使用し、効率と見栄えを重視する農業								
特別栽培	◎	○	○	○	◎	100%	85%	80%	
	F1の種を蒔き、効率は重視するが、農薬や化学肥料を一定量減らし、食べる人や自然のことも考えた農業								
有機栽培	○	△	×	○動物中心	◎	110%	60%	60%	
	天然由来の農薬や化学肥料と、動物性堆肥を使用可能にする農業(有機JIS認定がベース)								
自然栽培	△	×	×	○植物中心	△	150%	30%	50%	
	自然の循環で、雑草や枯れ葉は土に戻すが、圃場に持ち込まない圃場から持ち出さないが基本の農業								
自然農法	×	×	×	×	×	200%	10%	10%	
	土地に一切手を入れず、除草も耕耘もしない農業(不耕起栽培もこの一つ)								
翔栄農法	×	×	×	○自然のみ	○	150%	40%	80%	
	固定種在来種の種取りをし、農薬や化学肥料は使わず、他は臨機応変に対応する自然のみの循環型農業								



【翔栄の農業】

- ・翔栄と他の農業の圧倒的な違いは種です。F1の種を使わず、昔から採り続けてきた固定種在来種の種を守ります。2番目は、農薬や化学肥料を一切使わないだけでなく、肥料は堆肥中心で、動物性肥料は遺伝子組換え飼料を与えず、抗生物質も注射していない動物の糞に限ります。
- ・種と農薬や肥料以外はある程度自由で、耕耘も必要に応じて行いますが、トラクターの振動や重量で、微生物の住み家を壊さないように注意して行います。



・有機の中の「自然栽培」に近い形ですが…マルチなどは必要に応じて使用し、地域や就労者の能力や気候変動の状況に合わせて、臨機応変に対応します。
※言葉や定義に縛られず、圃場毎が主体的に考え、作物の安全と自然の循環を重んじ、地球と社会への配慮など、全体のバランスを考えて行う農業です。決めごとをするのは簡単ですが、各自が自然の摂理の中で、常に学びつつ挑戦するのが、翔栄の自然循環型農業です。

shizekura.net 翔栄ファーム は、農薬や化学肥料を一切使わず、人口の種でなく固定種・在来種による自然栽培農業で安全な作物を作り、提供いたします

